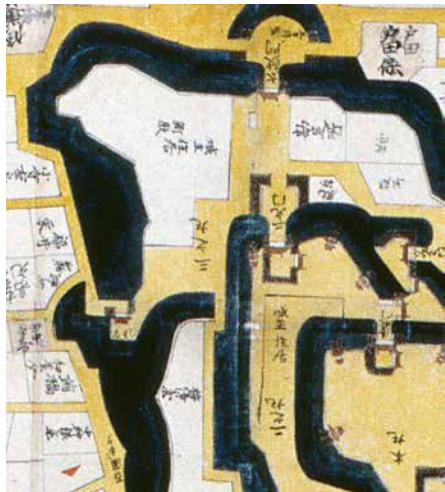


宇都宮城関連の発掘調査

栃木県立博物館 主任研究員 島田 佐智夫



「宇都宮御城内外絵図」
画像提供: 宇都宮市教育委員会

今回の発掘調査は、平成元（1989）年に宇都宮城跡の復元整備事業に伴って始まった。そして、令和4（2022）年2月9日現在で173回もの調査が行われている。

これまでの発掘調査によって見つかったモノ（遺物）は、城郭に用いられた瓦、かわらけと呼ばれる素焼きの小皿、陶磁器、下駄をはじめとした木製品など多岐にわたる。大量に見つかった瓦は文様のパターンから時期区分も行われている。中には、高級な舶来品の高麗青磁や青磁・白磁の破片といった威信財もあり、宇都宮氏の手を物語っている。

また、城郭跡や堀など遺構の発見は、歴史を裏付ける証拠となる。今のところ最も古い遺構は、13世紀後半頃の堀である。宇都宮城は藤原宗円によって11世紀に築かれたという説もあるが、より古い時期の遺構が今後見つければ、宇都宮城の築城時期も明らかになっていくだろう。

現在、宇都宮城址公園には、江戸時代中頃の姿で堀・土塁の一部と清明台・富士見櫓の2つの櫓が復元されている。この復元は、発掘調査の成果と絵図などの資料に基づいて行われた。さらに、現在、宇都宮城は3DCG技術で当時の姿が再現され、宇都宮城址公園でVR・ARが体験できる。同公園内の清明館では、ゴーグルでの宇都宮城VRツアー体験も可能だ。詳細は宇都宮市教育委員会文化課まで。

さて、近年の宇都宮城の発掘調査の中では、令和元年度に行われた139次発掘調査で興味深い発見があった。この調査では「宇都宮御城内外絵図」（上図）で見ると、ちょうど江戸時代の三の丸の北西部分が発掘された。そして井戸跡、柱穴などの遺構、中世のかわらけ、近世の瓦などの遺物が見つかった。さらに絵図をよく見ると、「城主居新殿」と記されている。この絵図が正しければ、城主の館に関係する柱穴と瓦などが見つかったと考えられる。

現在、栃木県立博物館で行われている人文系テーマ展「巡回展 栃木の遺跡」最近の発掘調査から「の中で、宇都宮城跡139次発掘調査の成果を展示している。展示期間は3月27日（日）までなので、この機会にぜひご覧いただきたい。

宇都宮城の発掘調査は、平成元（1989）年に宇都宮城跡の復元整備事業に伴って始まった。そして、令和4（2022）年2月9日現在で173回もの調査が行われている。

今回の発掘調査は、平成元（1989）年に宇都宮城跡の復元整備事業に伴って始まった。そして、令和4（2022）年2月9日現在で173回もの調査が行われている。



宇都宮城跡139次調査「北側完掘状況（西から）」
画像提供: 宇都宮市教育委員会

あなたの本づくりをお手伝いします。

一冊のぬくもりを大切にしたい。

これが私たちの編集コンセプトです。

図書出版・企画・編集・制作

37th
SINCE 1985

随想舎

<http://www.zuisousha.co.jp>

〒320-0033 栃木県宇都宮市本町10-3 TSビル

まずは
お電話を

028-616-6605

総務・営業部 1F TEL.028-616-6605 FAX.028-616-6607 編集・制作部 2F TEL.028-616-6606 FAX.028-616-6608 e-mail: info@zuisousha.co.jp